あさがおの栽培活動で大切にしたいこと

あさがおに心を寄せて関わる姿を！

あさがおの栽培活動は、一年を通して行うロングランの活動となります。長期に渡る活動を生かし、子どもの成長に合わせてゆっくりと着実に力を付けていきたいものです。そのためには、子どもが自分のあさがおとじっくりと向き合い、毎日の世話の仕方や困った時の解決方法などを自分で考え、実行していくことを大切にする必要があります。そうすることで、あさがおの成長に対する期待と親しみをもちながら、自分の手で育てていることを実感し、「わたしの大事なあさがおさん」という気持ちを膨らませていくことができるのです。

一つ一つの活動を大切に！

あさがおの栽培活動では、成長に合わせて世話をしたり、花で遊んだり、種を採ったりするなど、活動内容はほぼ決まっています。その一つ一つの活動に意味をもたせるように、意図的な教師の関わりが必要です。

例えば、種と出会う場面では、「あさがおを育てたい！」という意欲を引き出すことが何よりも大切です。また、「こんなに小さな種が、大きなあさがおになるんだな」と不思議さに気付かせることも必要です。さらに、種の観察は、小学生になって初めて行う観察の学習となります。観察の仕方や描き方なども、分かりやすく指導しなくてはなりません。このように、種と出会う場面だけでも、子どもに身に付けさせたい力はいくつもあります。長い栽培活動を通して、どの場面でどのような力を身に付けさせるのかをはっきりさせ、そのためにどのような関わりをしていくとよいのかを考えておく必要があります。

考える場面をつくる！

あさがおの栽培活動の中で、種の植え方、与える水の量、間引きの仕方や時期、支柱の必要性など、子どもにとって知らないことや分からないことがたくさんあります。当然、これらのことを教えなくてはなりません。しかし、単に教えるだけでは、なかなか子どもの本当の力となっていきません。子ども自身に考えさせ、気付かせていくことで、実際に使える知識となって身に付いていくのです。

例えば、お世話を始めるにあたり、温度や水やりの大切さを教えたいときに、「あさがおさんからお願いの手紙が届いたよ。」と右の絵を見せるとどうでしょう。「あさがおの種が震えているよ。寒いのは嫌いなのかな。」「水の中で苦しそう。水をたくさんあげすぎるとだめなのかな。」と考えていくことができるはずです。

意欲をもとに、表現力を育てる！

あさがおの観察をする時に大切なことは、「あさがおをよく見てみたい！書きたい！」という意欲をもたせることです。子どもに、観察したい、書きたくてたまらないという思いをどうもたせるかということが大切な教師の関わりとなります。観察の動機付けやカードの工夫、子どもの心をくすぐるような言葉かけなど、様々な関わりが考えられます。

また、書くことだけではなく、話すことや聞くことも同じように大切にしたいものです。観察中に友達のあさがおと比べてみたり、観察した後に互いのカードを見合ったりすることで、新たな気付きが生まれたり、互いの活動のよさに目を向けたりするようになっていきます。その際にも、「話したい！聞きたい！」という意欲を引き出すことが大切です。「とても大事なあさがおさん」という気持ちをもっていれば、自分のあさがおの様子を伝えたくなり、友達のあさがおの様子も気になって聞きたくなるはずです。

子どもの気付きと教師のかかわりを想定する！

一年間のあさがおの成長や活動を見通して、期待する子どもの姿や気付きとそれを引き出す教師の関わりを想定しておくと、効果的な価値付けが可能となります。また、世話や観察を通して、「葉っぱがちょうちょみたいな形だよ」「本葉はふわふわしているよ」といった知的な気付きが生まれます。

それに加えて、「大きくなってね」「元気がなくて心配だよ」といった情的な気付きも育まれます。どちらも見逃すことなく価値付けていくことで、あさがおに心を寄せて世話をしようとする子どもの姿が見らます。

あさがおの成長	主な教師の関わり
種	大事に育てようとする思いや成長への期待感を引き出し、色や形、大きさなど、詳しく観察したことを価値付ける
芽が出る	一生懸命に世話をしている様子、葉脈や毛など細部までよく観察していることなどを価値付ける
葉が出る	水の与え方や日当たりのよさなどをよく考えた世話の仕方、諸感覚を使った気付きなどを価値付ける
つるが伸びる	つるや新芽などの変化、友達のあさがおとの対比による気付きなどを価値付ける
（夏休み）	夏休み中の観察や世話について、よさを引き出し、そこでの発見などを価値付け、２学期も大事に育てようとする意欲を喚起する
花が咲く	つるや花、種など、あさがおの部分の様子に着目させ、その面白さや不思議さなどへの気付きを価値付ける
種ができる （後片付け）	これまで大事に育て続けてきたことや、その思いに着目させ、世話を続けた自分のよさへの気付きを価値付ける

子どもの気付きを捉える！

子どもの活動の様子や観察カードなどからよさを見取り、気付きを価値付けていきます。そうすることで、あさがおに対する愛着や世話・観察への意欲が高まり、鋭く観察する目も育っていきます。

「はっぱがげんきないね。しんぱいだよ。」という情的な気付きが見られます。

教師は「きれいにさくといいね。がんばれあさがおちゃん。」と子どもの心情に寄り添い、共感的にコメントをしています。

「ほんばが、ぼくのじょうぎをこえたんだ。」と、定規で長さを比べた知的な気付きが見られます。

教師は「ながさをはかったんだね。すごい！」と、長さに着目したことを認め、価値付けています。

気付きの質をさらに高めるためには、一人の気付きを全体で共有する場を工夫するとよいでしょう。以下のような具体的な方法も考えられます。

- ○　授業の初めや終わりに、観察カードからよいものを紹介する。
- ○　世話や観察の途中で、活動や気付きのよさを全体に伝えたり、交流を促したりする。
- ○　観察カードを書き終えた子ども同士で、カードを見せ合う。
- ○　子どもの注意を引く場所に観察カードを掲示する。